

町立奥出雲病院における分娩の休止について

町立奥出雲病院

1. 産婦人科診療のうち、**分娩の取扱いを休止**（外来は継続→週3回）
2. 休止の時期は、**令和3年3月16日から**→（町広報や利用者への説明済）
3. 分娩を休止する主な理由
 - ① 分娩は医療過誤のリスクが高くなることから、安全性を確保するために2名以上の産科医が常勤している医療機関での分娩を推奨しているが、当院は1名体制であった。当院の医師は非常勤であり、また高齢でもあったため、これ以上個人に負担をかけることができないと判断したため。
 - ② 医師も労働者であり待機の一部や休日・夜間の分娩が時間外勤務となる。外来診療と兼ね合いから連続労働時間や休暇取得等の問題が解決できなければ法令に触れる可能性がある。医師の働き方改革により1名体制では産科診療と分娩の両方を続けることは難しいと判断したため。
 - ③ 国では、著しく産科医の確保が困難な地域については公立病院を中心とした医療資源の集約化・重点化を推進する事が、当面の最も有効な方策として打ち出しており、雲南市立病院との地域医療連携推進法人の設立を見据え、先行して協力体制を行なっていくこととした。
4. 今後の対応について
 - ① 妊産婦の意見を尊重するが、できるだけ**雲南市立病院に分娩を依頼**予定。（分娩リスクの高い妊婦の場合は大学病院へ紹介することもある。）
 - ② 外来は、週2回当院の医師が引き続き診療を行い、週1回は島根大学附属病院等の外部から依頼し、合計で週3回の診療を行なう。これまでどおり妊娠初期及び中期、また出産後について利用者の不便が生じないよう対応する。
 - ③ 当院独自の対応として、週1回の助産師外来や新生児訪問等を継続し、妊産婦に寄り添い安心の場を提供する。
 - ④ 町の母子保健事業について、病院助産師が積極的に関わり「奥出雲町産前・産後サポート事業」を充実したものとし、町全体で支える事業を展開していく。また分娩に係る交通費の助成を新年度から町が実施する。

※参考資料

当院における近年の分娩数

年 度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度
分娩件数	80	80	56	50	44

※R元年度の分娩のうち里帰り分娩は16件（町内=28件）